

## 神葬祭 三年祭詞

最近、神葬祭を希望される方が増えてきています。

また、年祭（法事）についても「どういうものか」という問い合わせが見られるようになりました。

そこで、例文として、三年祭詞を参考までに載せておきます。

お経と違って、全て日本語ですから、故人を偲ぶのに、親しみやすいとの評判です。

平成二六年一二月八日

689-3535

鳥取県米子市東八幡 276

米子八幡神社

葬祭部

0859-27-0339

### 【解文】

散り果てし木々のこずえに風さえて、寒椿 花さむき庭の時雨に、  
ゆく水の過ぎて帰らず。

このたまどころに鎮めまつる、いわまくも悲しき、もとの〇〇〇〇のみことの御前に慎み  
いやまいかしこみかしこみもうさく。

花の頃、月の夕べも、いましみことのいまさねば、淋しさに思いしずみて、

祈る力なく、観るかいなくて、寄りてかたらい、別れては ひとりかなしむ なげきの月  
日かさなりて、消えゆく年も 早や三度（みたび）めぐりぬ。

彼、ここをもちて、みたま（霊）を なごめまつらくと、奥山の いほえのまさかきさし  
たて、時の花をも取り添えて、三とせ(年)の御霊祭り（みたままつり）つかえまつらむ。

朝も つとめて、いみきよめ、はらいきよめて、つかえまつる家人（いえひと）残されし  
人々が、ささげまつる 心づくしの みけ、みき、くさぐさ、を

心 やすらに 思いめし たまい。

うから〔親族〕はらから〔兄弟〕、おのもおのも、心のたけを つげまつりて、おろがみ  
まつるさまを、あな嬉し、あなよろこばし と みそなわして

みちか夜の かり寝の夢のさめがてに、 しのび まつらむ 心ごころを

あわれと みそなわし、 行く先も、行くすえ 長く うみのこの 家かど高く広く  
さかえ行く世を、 あまがけり、くにがけりて 守りたまひ、幸（さち）はえたまい。

みたまは、なつかしき 母の みもと(御胸)に 抱（いだ）かれて、やすく おだいに  
しずまりませと、かしこみ かしこみ いやまい て もうす。

平成二十六年十二月八日

祈修 八幡神社

拝